

令和3年度 第1回総合教育会議次第

日 時 令和3年10月22日(金)
午後3時~

場 所 本庁舎会議室302・303

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

(1) 休日の部活動の段階的な地域移行について

(2) その他

4 閉 会

令和3年10月22日
令和3年度第1回総合教育会議資料

射水市中学校

休日の部活動の段階的な地域移行について

～ 持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立～

射水市教育委員会

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の概要(文部科学省)

部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

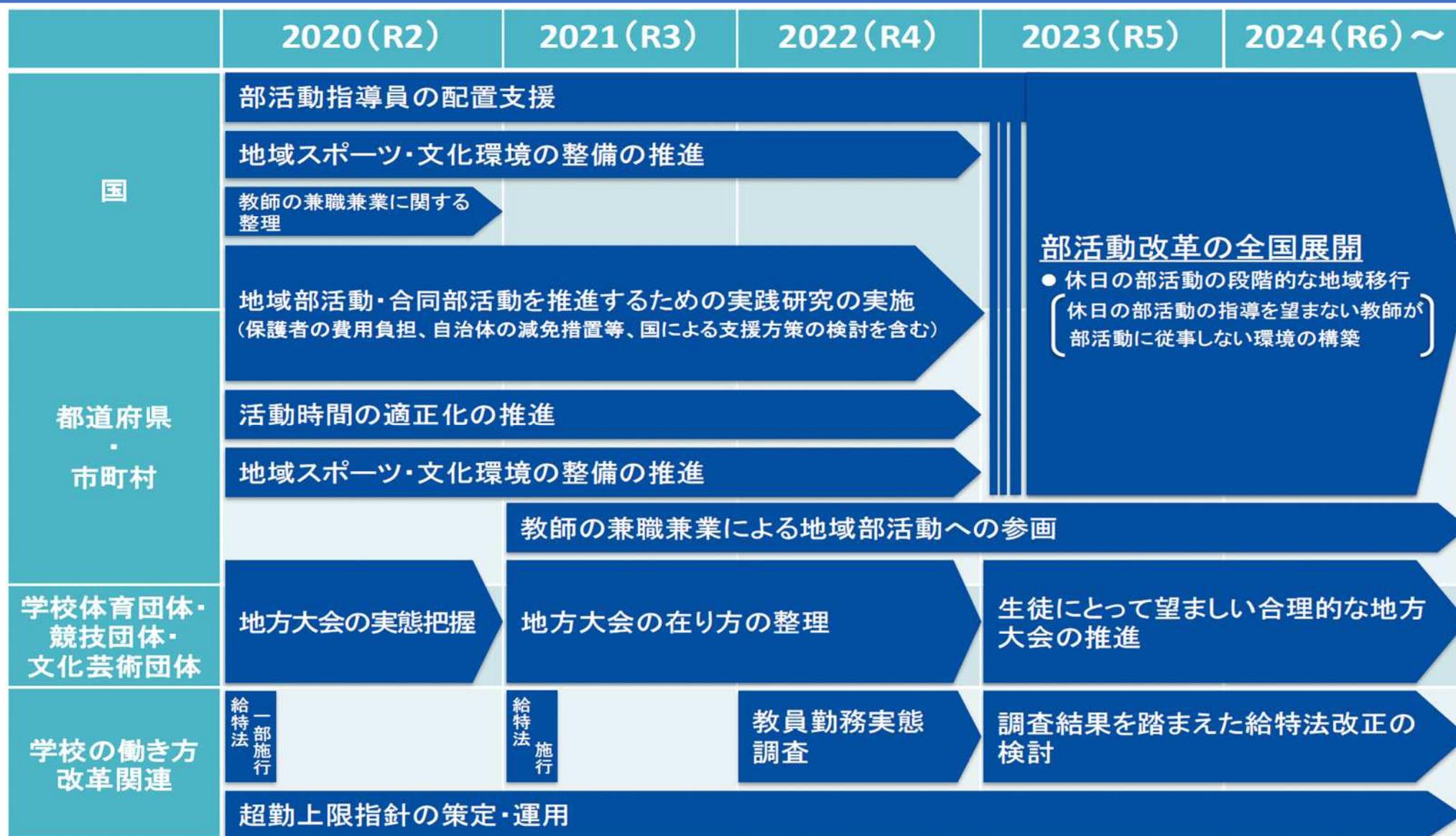
文部科学省HPより抜粋

整理すると

教師の働き方改革や負担軽減の視点から、本来の業務にあたる時間を確保するための改革である。

部活動の意義の視点から、教育 = 学校・教師だけが担うものではなく、学校外のさまざまな人から生徒にとって望ましい指導を受けられる環境を整えるための改革である。

部活動の地域移行のスケジュール（文部科学省）



部活動の地域移行の背景

1 部活動の歴史

- ・ 1947年 クラブ活動として自由研究の中に位置づけられ、**教師による指導の必要性が明記**された。
- ・ 1957年 特別教育活動に位置づけられ、自由参加であり生徒の自治を目指した集団とされた。
- ・ 1977年 必修クラブ活動が特別活動内に設置、部活動は課外活動として並行実施となった。
- ・ 1987年 部活動参加が必修クラブ活動履修と認める「部活動代替措置」が設けられ、**部活動を強制参加とする学校が増えた。**
- ・ 1998年 部活動が広く実施されていることで必修クラブが廃止された。

以来、**学校部活動は日本の中高校生世代の文化・スポーツ環境の中心的役割**を果たしてきた。部活動は、**教育的意義の高い活動である一方で、教師による献身的な勤務に支えられており、特に休日の活動における教師の負担は大きくなっている。**

2 部活動に関する捉え

学習指導要領	社会教育法	実際
・部活動は学校の 教育課程外の学校教育	・ 学校の教育課程として行われる教育活動を除き 、青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育・レクリエーション活動を含む)	・社会教育にも学校教育にも位置付けられているが、「学校教育」「教師による指導」という印象が強い。
・地域の人々の協力、社会教育施設や地域のスポーツクラブといった社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行う。		・望む部活動が、通学する学校にないということもある。
・ 生徒の自主的・自発的な参加 により行われる活動		

部活動の地域移行の背景

3 現在の部活動を取り巻く問題

○教師の超過勤務時間や負担の増大

- ・学校や学級運営、授業準備や研修等の本来の業務にあたる時間が圧迫されたり、休日の指導、大会引率、大会運営に大きな時間が取られたりする。
- ・専門外の種目を指導すること、成果を求められることなどが精神的に負担となっている。

○指導者について

- ・指導力や熱意の差があり、教師の異動による影響が大きい。
- ・指導者資格(日本スポーツ協会公認や各競技団体公認)を保有している指導者を確保することが難しい。
- ・指導者の暴言や暴力等のハラスメントが問題となることがある。

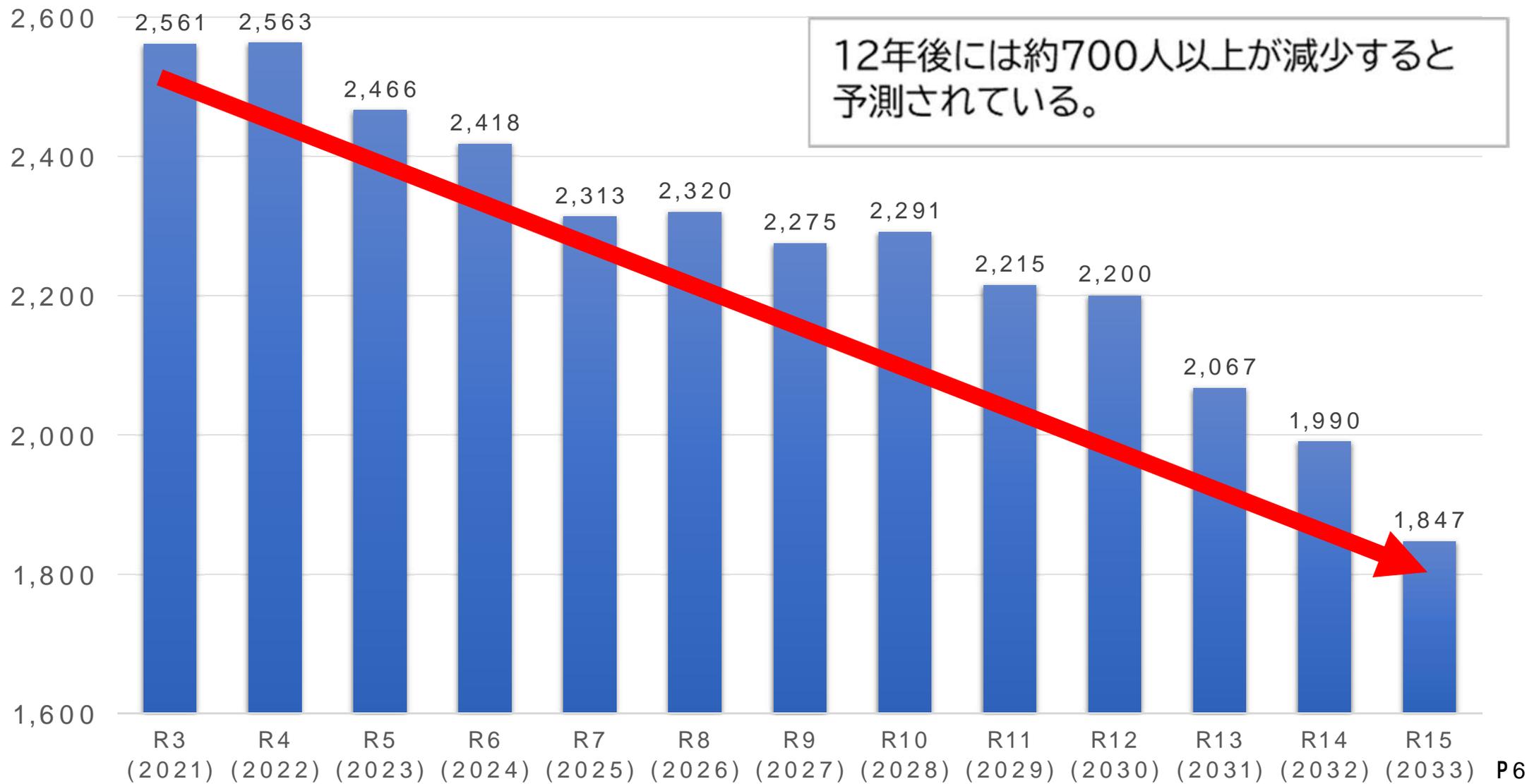
○生徒について

- ・地域クラブに加入している生徒がどこから試合に出るのかで人間関係や運営に影響がある。
- ・地域クラブに加入している生徒が学校では望まない部活動に加入している場合がある。
- ・望む部活動がなかったり、競技レベルや運営方針など自分のニーズに合致しなかったりすることで意欲が高まらず、自主的・自発的に活動できない生徒がいる。

○将来的な生徒数の減少について

- ・今後12年間で射水市内の中学生の数は、約700人以上が減少する。資料は次ページ
- ・生徒数の減少により、学校単位でチームを組めない競技種目が増加することが予想される。

今後の生徒数の推移予測(市内全中学校総数)



今後の生徒数の推移予測(市内各中学校)

学校名	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R12 (2030)	R15 (2033)	対R3比
新湊中	243	228	210	200	177	179	160	156	104	42.8%
新湊南部中	221	243	239	254	240	243	232	227	197	89.1%
射北中	340	331	313	312	317	323	306	283	204	60.0%
小杉中	665	673	656	651	637	643	642	617	611	91.9%
小杉南中	293	297	302	298	287	288	301	300	260	88.7%
大門中	799	791	746	703	655	644	634	617	471	58.9%
合計	2,561	2,563	2,466	2,418	2,313	2,320	2,275	2,200	1,847	72.1%
増減(R3基準)	0	2	95	143	248	241	286	361	714	

各部員数(R3年度1・2年生)と部活動指導員・スポーツエキスパートの派遣状況(運動部)

部活動名 学校名		野球		サッカー		ソフトテニス		卓球		バスケットボール		バレーボール		柔道		剣道		ソフトボール	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
新湊	部員数	12		14	3	26	7			14	6		19			7	2		
	派遣	部				ス				ス	部			ス		ス			
新湊南部	部員数	8		25		18					13					9	14		15
	派遣	部		部		部					部					ス			部
射北	部員数	16		13		14	15	18					15	5		7	6		13
	派遣					ス		ス								ス			ス
小杉	部員数	25		39		32	37	22	21	20	14	27	18	12	2	12	6		
	派遣	ス		ス				ス	ス	ス				ス		部			
小杉南	部員数	25		19	2	15	20	17	15		10	8	9	10		2	4		
	派遣									ス		ス	ス	部					
大門	部員数	23		19			20	26	28	32	19	21	24	9	1	22	10		9
	派遣	部		ス							ス	ス	ス	ス		部			部

部:部活動指導員(単独での指導・引率が可能)・R3年度は6校へ17人派遣
 ス:スポーツエキスパート(単独での指導・引率は不可)・R3年度は6校へ27人派遣

各部員数(R3年度1・2年生)と部活動指導員・スポーツエキスパートの派遣状況(運動部)

部活動名 学校名		ハンドボール		陸上競技		水泳		新体操		ヨット		バドミントン		相撲		体操		トレーニング	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
新湊	部員数						1											11	1
	派遣																		
新湊南部	部員数							3	7										
	派遣							ス	部										
射北	部員数						4			3	10		8						
	派遣									部	ス	部							
小杉	部員数		18	13	15		2		2										
	派遣			ス															
小杉南	部員数																		
	派遣																		
大門	部員数	35	18	43	35												20		
	派遣	部		部													ス		

各部員数(R3年度1・2年生)と部活動指導員・文化部等講師の派遣状況(文化部)

部活動名 学校名		吹奏楽		美術		合唱		科学		放送演劇		ボランティア		家庭		園芸	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
新湊	部員数	2	17	0	16												
	派遣	文(2名)															
新湊南部	部員数	2	16	4	15												
	派遣	部		文													
射北	部員数	2	15	6	23							23	4				
	派遣																
小杉	部員数	2	30	5	16	0	13	16	0	2	10			0	8		
	派遣																
小杉南	部員数	4	16	1	2			2	10								
	派遣	文(2名)															
大門	部員数	11	29	4	21			15	0	4	19					6	11
	派遣	文(2名)															

部:部活動指導員(単独での指導・引率が可能)・R3年度は1校へ1人派遣
 文:文化部等講師(単独での指導・引率は不可)・R3年度は4校へ7人派遣

教師への中学校部活動実態調査（アンケート）結果

1 対象者及び内容（令和3年6月末基準）

対象：中学校の部活動顧問、副顧問等の教師141人（運動部18部 111人 文化部8部 30人）

内容：部活動の指導経験年数、指導時間（繁忙期である6月の1週間の平均）等について調査

2 アンケート結果

（1）指導経験年数

- ・現在、主として担当している部活動の全教師の指導経験年数（平均）は6.5年であるが、経験年数が0年～4年までの教師が全体の約60%を占めている状況

（2）希望部活動か

- ・現在勤務する学校において、希望する部活動を指導している教師の割合は、約75%の状況

（3）指導時間（週当たりの平均時間）の状況

- ・平日及び休日 9.2時間/週であり、11時間未満の割合は約74%の状況
- ・平日 5.3時間/週であり、8時間未満の割合は約92%の状況
- ・休日 4.0時間/週であり、3時間未満の割合は約53%の状況

休日部活動の指導時間は、国ガイドラインの基準である3時間を超える割合が高い。

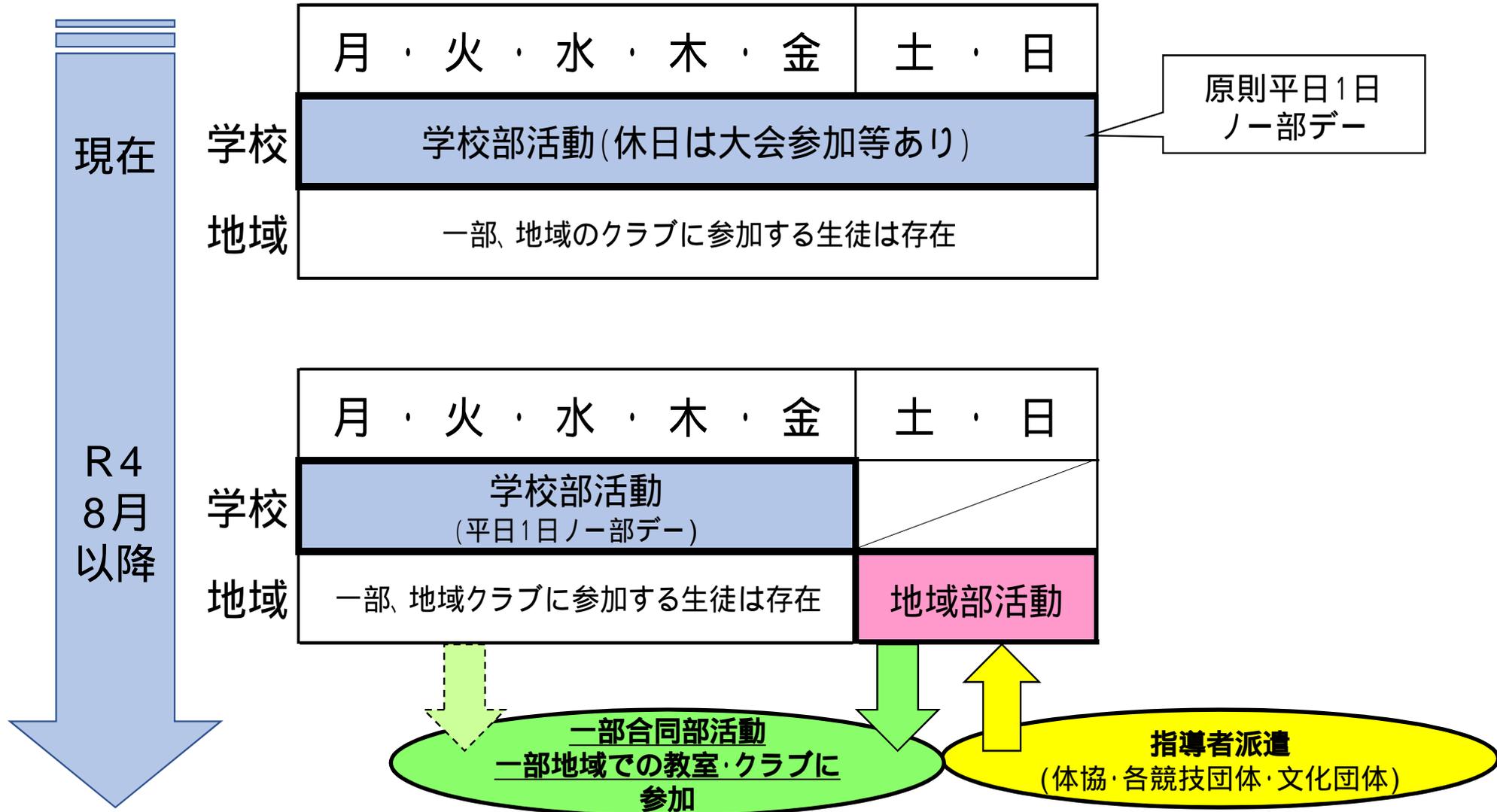
部活動の在り方に関する国ガイドライン
（H30.3スポーツ庁、H30.12文化庁）
週休2日以上（平日、休日1日ずつ）
の休養日を設けること。
1日の活動時間は平日は2時間程度、
休日は3時間程度に設定。

○このことから、1週間あたりの活動時間の上限は、週11時間（平日4日×2時間、休日1日×3時間）とみなすことができる。

3 まとめ

- ・指導時間の状況から、休日部活動の地域移行が実現した場合、教師の長時間勤務の解消に大きな効果がある。
また、部活動を指導している教師の約75%が希望する部活動に携わっている現状からも、今後、教師が兼業許可を得て指導すること等、教師の意向調査を行い、指導に参加できる体制を整備についても検討する必要がある。

休日の部活動の地域移行イメージ



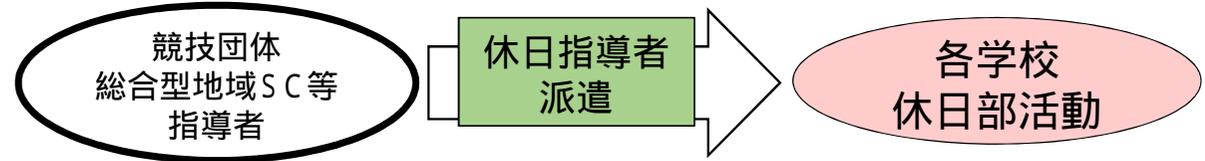
「地域運動部活動推進事業(スポーツ庁)」に取り組んでいる市町の状況

市町村	規模	概要や方向性
朝日町	1校	<ul style="list-style-type: none"> ・競技協会や総合型地域SC、スポーツ少年団、文化・芸術関係者で地域部活動運営組織「朝日町型部活動コミュニティクラブ」を設立し、1週間のうち平日1～2回、休日1回程度を地域クラブとして活動 ・現在は8種目(バスケットボール、陸上競技、卓球、柔道、剣道、ソフトテニス、バレーボール、吹奏楽)を対象として活動
黒部市	2校	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点校で選定した3種目(バレーボール、バスケットボール、アーチェリー)は、休日の地域部活動として活動 ・拠点校と連携校で選定した3種目(陸上競技、柔道、剣道)は2校合同で休日の地域部活動として活動
高岡市	12校	<ul style="list-style-type: none"> ・2校を拠点校として4種目(野球、女子バレーボール、ソフトテニス、バドミントン)を選定し、合同部活動を実施 ・8種目(陸上競技、バスケットボール、サッカー、ハンドボール、卓球、水泳、柔道、剣道)は競技団体に委託し、拠点となる学校・施設で休日に定期的に活動(各種目定員あり)
南砺市	8校	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に設置する部活動の数を減らすため「拠点校化」を進め、市全体でバランスよく配置 ・「特認校制度」をすべての中学校に導入、希望部活動が就学先中学校にない場合は希望部活動がある学校への就学を許可 ・「兼職兼業」の許可を得た教員も、勤務時間外(平日含む)に地域指導者の一員として指導

休日の部活動の地域移行 考えられる射水市の活動パターン

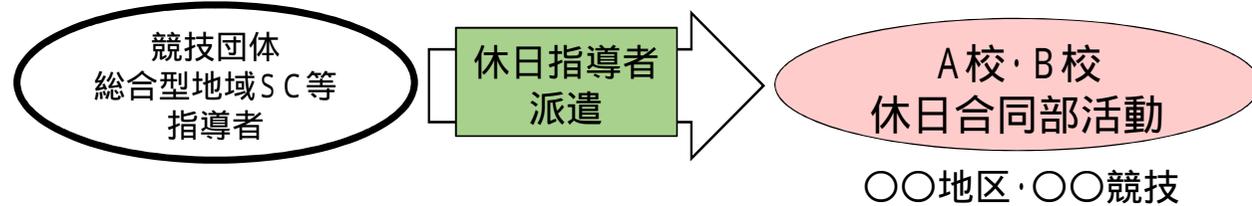
パターン1

各校の休日の部活動に指導者を派遣



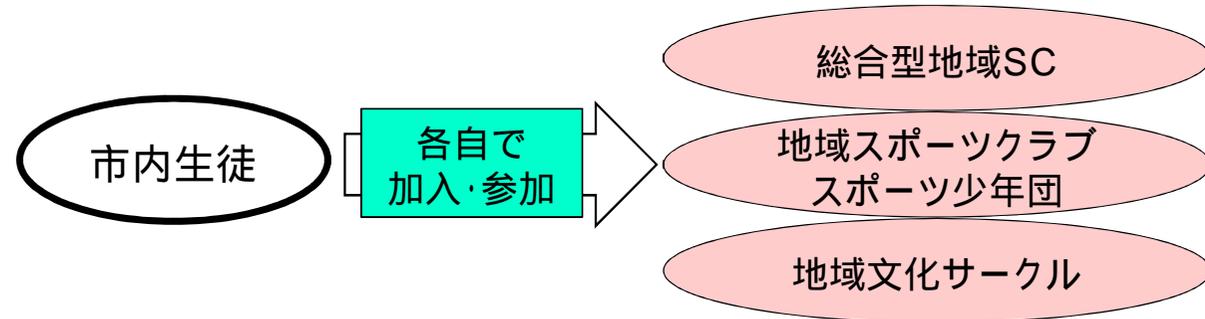
パターン2

拠点地域や種目を選定し、複数校による合同部活動に指導者を派遣



パターン3

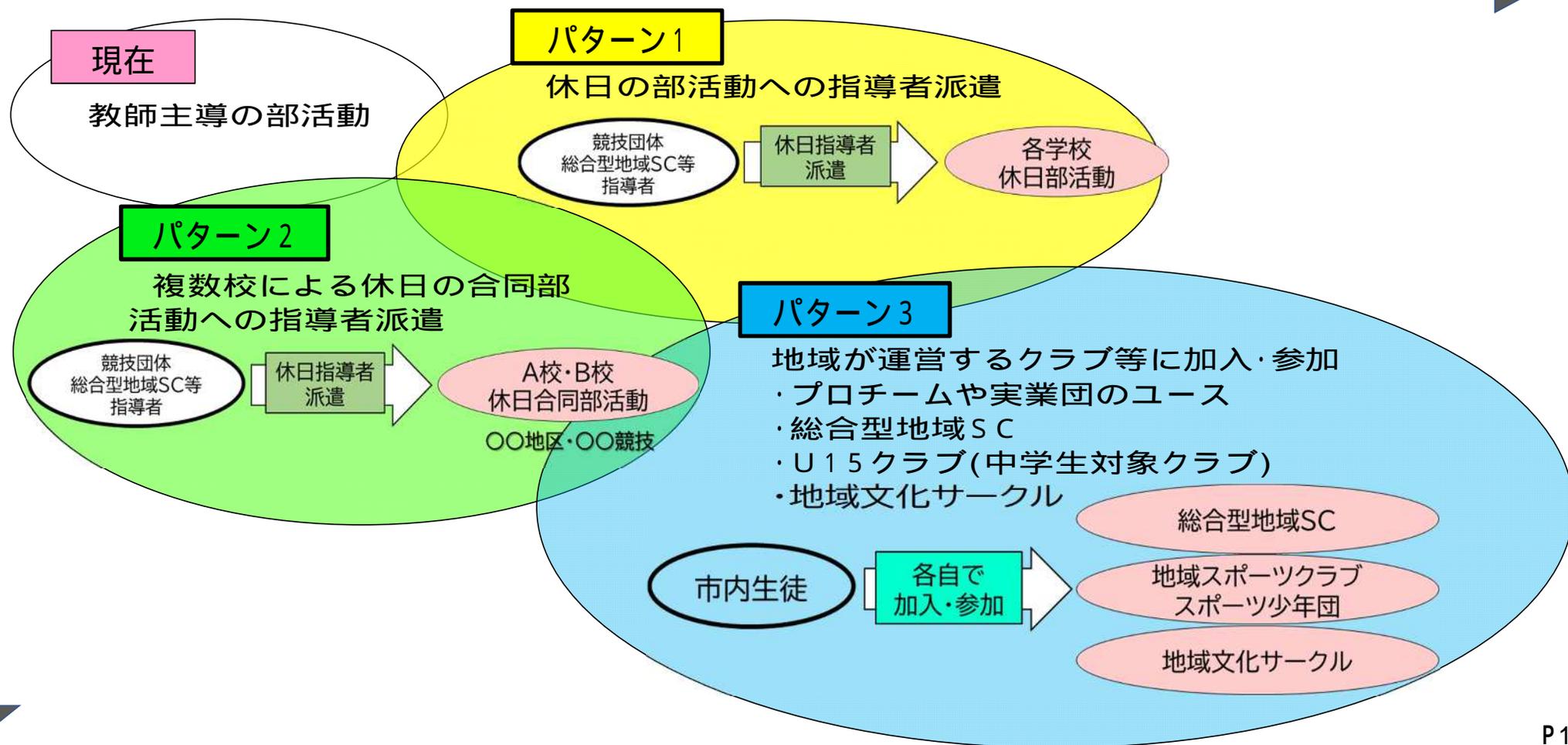
地域クラブや総合型地域SCに加入



休日の部活動の地域移行 考えられる射水市の活動パターン (教師の多忙化解消と競技力向上・部活動の多様性から)

教師の多忙化解消

競技力の向上・部活動の多様性



射水市の部活動の地域移行 主な事業スケジュール



教育機関が持つ知見の活用及び学生のまちづくりへの参画を推進するため、市と各教育機関が連携し、事業に取り組んでいる。（市内教育機関と連携した学びの場の提供等）

高等教育機関（4機関）との連携

富山県立大学

平成18年4月 包括的連携協定を締結（産業振興、教育・文化・生涯学習・人材育成等8分野）

富山高等専門学校

平成23年7月 包括的連携協定を締結（教育・文化・生涯学習、地域振興・まちづくり、科学技術振興等6分野）

学校法人浦山学園（富山福祉短期大学、富山情報ビジネス専門学校）

令和3年8月 包括的連携協定を締結（産業振興、教育・文化・生涯学習、福祉、地域振興・まちづくり等9分野）

県立高等学校（3校）との連携

新湊高等学校、小杉高等学校、大門高等学校

令和3年6月 射水市と市内県立高等学校との**連絡会議を設置**
（地域課題の解決に向けた取組、地域の特色を生かしたまちづくりの取組、地域活性に関する取組等）